

最近

アイチが冷たい

先導アイチ
× 權トシキ

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止



いつの間にか俺たちは
恋人同士になった

まだ、はっきりと
気持ちを言葉には
していないけれど

お互いの心さえ
繋がってれば
それだけで十分だ



あのね
僕たち何か
おかしくない？

喫茶店で
二人きりで…


プレゼントを
取り交わす
とか…ね



おかしい
ことか？

だ、だから
僕たちはきつと
今以上の関係にも
なれるんじゃないか…
と…思っ…て…!!


それ以上の
関係？



も、勿論俺も
嫌なわけじゃ
ないけど…


何が言いたいんだ
恋人以上の関係って…

これ以上の段階は
キスやセックスの
ようなことか




アイチがそんなことを
考えているはずがない
きつと別の事だろう

け、結婚とか…




いや、何を
考えてるんだ俺は…

純粹



そんなのは…



まったく…
俺とした事が…





一体何のために
俺を呼び出した？



アイツ、昨日は
そのまま黙って
帰るなんて
あんまりじゃないか



お前も今度の新しい
ブースターを試しに
来たんだな

一緒にやるか？

……う、うん



アイチ

か、權くん！





何だ何だそんなに不満なんだ

.....



ごめん...

無視されてる気分だ



やる気が失せた



もういいやめよう



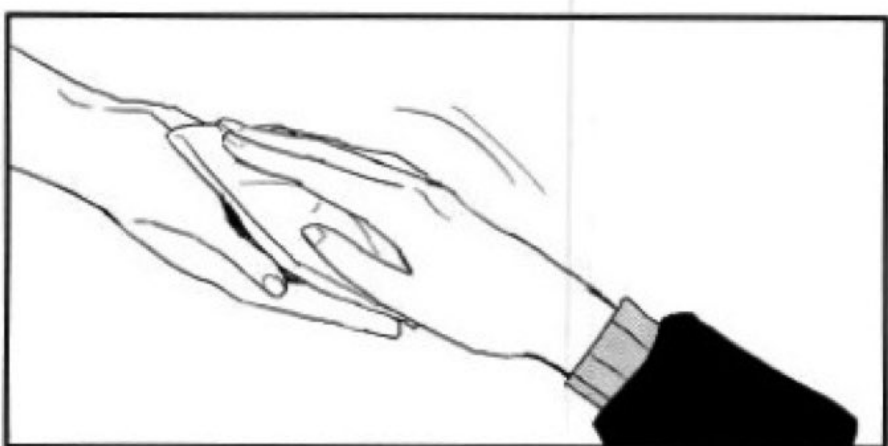
ああっ!

ふざけやがって!



でもせめて
フアイトは
しっかりやるべき
じゃないか







ゴ
ア
ア
ア



傘持って
来なかったのか

あ…雨が…



これで話し合う
機会が出来るはず…

送ってやるぞ

えっ…



じゃあ
また明日!

權くん
に
迷惑
かけ
たく
ない
よ

あまり
降って
ない
から
大丈夫

いい加減にしろ!!

どうせ俺は
お前なんか
いなくても...

俺と
一緒にいることに
飽きたのか!?

お前
昨日からずっと
俺のことを無視して

そうだ
どうせ俺は...
おれは...

おれは...
お前がいないと
だめなんだ...

いつだって
一緒にだって...言っ
てくれたじゃないか

なのに
どうして...



そんなつもりじゃ
なかったよ...



ごめん、権くん

僕は...



雨脚が弱まるまで
ここにて雨宿りするか

うわあっ
ひどい雨だ...

傘が無駄に
なっちゃった

ザァァ



その
ハンカチ...

ん？



権くん
すごく濡れたね...











ちよつと
待っててね

え…?

えっと…
雨が止んだか
確認しようと
思ってた…



うわっ!

待て!



……



大丈夫だ
俺がやって
やるからな

出したくなったら
遠慮なく手に
出していいぞ



くっ、やはり…
固くなっている…

だ、駄目だよ權くん!
そんなところを
触っちゃ…



だけど
こうすれば...

ちゅぽっ

な、なんて
反応しないんだ...

やっぱり経験が
ないからダメなのか...

ちゅぽっ

ちゅぽっ

やめて!

権くんは僕に
どうして
欲しいの?

欲しいものが
あつたら言っただけさ

権くんに
こんなのを
させたくない



こう、か？

そこに座って
お尻はこっちに
向けてみて

うん、ゆっくり
挿れるから...
力抜いて

うっ、ム...



どう...？
痛くない...？

わ、からん...





傘を差しても
濡れちゃうぜ



すっげー雨

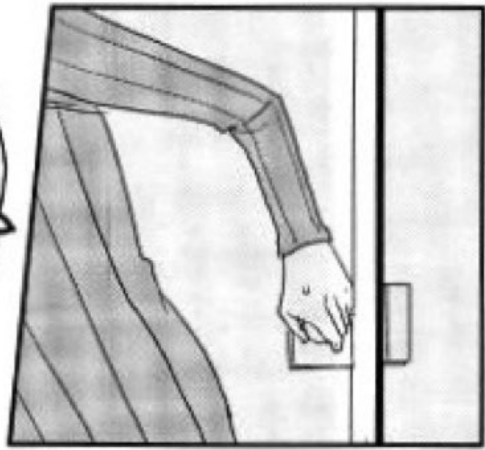
はっ



まだ、中に
あるのに…

こ、このまま…
待ってなければ
いけないのか…

ちよろちよろ



アイッ…

俺の傘は
さっき壊れ
たからな
雨が止むまで
待とうか…

ずっと…びくびく
してるじゃないか

アッー…



変な、感じ...
くすぐったい...?

家も目と鼻の
先だし走った
方がいいんじゃないやねー?

やっぱり
そうだよな...

はあ...!



ご、ごめんね
びっくりした?

お前、いきなり
こんな...!

でも、さつきより
良くなったみたいだね
感じちやった?

そ...それは...

おんおん

おめおめ

おめおめ





ハリネズミごはん

発行日：2014.9.14

責任者：秋留

E-mail: akirunyang@gmail.com

Pixiv: 1625628

Print: 株式会社栄光様

Special Thanks to

翻訳: セキオさん、もうごさん

アシスタント: シュークリームさん

※ 本書は原作者様および関係者とは一切関係ありません。

※ オークション・無断転載・複製は禁止しています

―秋留

なんか書き込みたい後書きは
いっぱいありますけど席がありませんね(泣
読んで頂きましてありがとうございます！
お互い誤解して、
結局その誤解が溶けなかったのにも
なんだか愛の力でなんとかなる
そんな話が描いてみたかったです
「え？本当にこれで終わり？」
誤解の理由は教えてくれないの？」
とか思われると思いますが、それでいいです。
そのわけの分からない、なんとなく
終わったような彼らの気持ちを感じてください
多分恋愛ってそういうものなんです
ね

